

登録コード	SE528200	開講年度	2026				
授業題目	自然史実習				担当教員	東城 幸治	
英文授業名	Natural History Practice				副担当	高梨 功次郎・松本 卓也・上木 岳・坂本 勇貴	
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学年
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 Sカリ, 2 5 Sカリ, 2 4 Sカリ, 2 3 Sカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】理学の各分野における専門知識				地球上のあらゆる生き物たちは、それぞれの種が単独で生活しているわけではなく、互いに影響を及ぼしながら、複雑な関係性を構築しながら生活している。また、生物だけでなく、生活圏の環境そのものの(非生物的な)影響も強く受けながら生活している、その実態を自身の五感を用いて体感するとともに、体感を通じた深い理解へと結びつける力を身につける。		
	【2023年度以降カリキュラム対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し、その成果を的確に他者に伝える力				野外での自身の観察を通し、生物種群ごとに生活の場をどのように選択しているのか? すなわち、ニッチの分化や種間相互作用などを理解する。教科書等で解説されているような現象を実際の現場における観察と関連づけながら理解を深め、その成果を自身の言葉で発信できるようにする。		
	【2023年度以降カリキュラム対象】理学の基礎知識と専門知識を活用して課題を発見し取り組み、その成果を社会に役立てる力				個々の生物の「生きざま」に関する深い理解を基盤として、地域の生態系において生じている様々な課題についても理解を深める。また、そうした諸々の課題に対し、科学的思考に基づいて対処等を検討することのできる素養を身につける。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	宿泊を伴う野外実習として、動植物の多様性や生態についての理解を深める。本実習では、信州の豊かな自然を活かし、そこに生活する動物植物を実際に観察するとともに、生態学や分類学についての調査・研究法を実践する。また動植物の多様性や自然環境との関わりを学ぶ。さらに、これらの実習では参加者全員が合宿し、寝食をともにしながら学問についての語らいの場をもつ。これらを通じて参加者相互の理解を深めることももうひとつの課題である。 中央アルプス・西駒演習林(農学部)を主なるフィールドとし、高山帯や亜高山帯も観察の対象とした実習を実施する予定であるが、天候等により、実習内容や実習地を変更する可能性もあるので、事前のガイダンスやアナウンス、eALPS上のお知らせなどに留意すること。						
(5)授業のキーワード	フィールド実習、生物多様性、高山帯・亜高山帯・山地帯、種多様性(α多様性、β多様性)						
(6)授業計画	講義日程：未定。 1. 本学においてガイダンス、および実習内容に関する講義(本学にて) 2. 野外実習 2-1(1日目) 高山帯生態系の成立(地理・地形・植生)と高山動植物の観察 亜高山帯生態系の成立と亜高山動植物の観察 山地帯生態系の成立と山地帯動植物の観察 ライトトラップ調査法の実践 中・大型野生動物のトラップ調査の実践 2-2(2日目) 山地帯動植物の観察と分類、多様性評価 山地帯・亜高山帯における植生の違いに応じた土壌動物相の関係性評価 ライトトラップ調査法の実践、灯火昆虫類の分類、多様性評価 中・大型野生動物のトラップ調査の実践 2-3(3日目) 山地帯動植物の観察と分類、多様性評価 山地帯・亜高山帯における植生の違いに応じた土壌動物相の関係性評価 土壌動物類の分類、多様性評価 3. 野外実習後のまとめ(本学にて)：動物の分類、多様性ほか						
(7)成績評価の方法	実習への取り組み姿勢(50%)、およびレポート(あるいは、実習最後のプレゼンテーション)での成績(50%)により評価する。 *野外での実習参加だけでは単位認定ができません。						
(8)成績評価の基準	実習中に、いくつかの観察課題を課しますので、それぞれの課題について、レポートを提出してください(実習最後のプレゼンテーションに代替する場合があります)。それらの総合的評価により、レポート評価を実施します。						
(9)事前事後学習の内容	詳しくはガイダンスにて説明します。						

(10)履修上の注意	野外での実習で、危険を伴うことがありますので、受講者は必ず全員傷害保険に加入してください。服装などの注意点もガイダンスで行います。 *履修前に「安全の手引」を参照して下さい。
(11)質問,相談への対応	随時、受け付けますが、まずは実習のガイダンスを実施しますので、できればガイダンスに参加後に質問や相談をお願いします。 問い合わせ先: 東城幸治 ktojo@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	特に指定しない
【参考書】	ガイダンスで指定予定